

交通安全・渋滞対策

阪神高速グループでは、交通事故を削減してより安全な高速道路とするため、交通安全対策や関係機関とも連携し交通安全啓発活動に取り組むとともに、阪神高速道路のネットワークの拡充・強化に加えて、拡幅や車線運用の変更、速度回復誘導灯の設置などのボトルネック対策をはじめとするさまざまな渋滞対策に取り組んでいます。

交通安全対策基本計画の推進

交通安全対策基本計画

社会状況の変化やこれまでの交通安全に関する各種取り組みの成果および課題を踏まえ、交通安全対策のさらなる実効性向上や底上げを実現していくための方針を「交通安全対策基本計画(2024-2028)」としてとりまとめています。

1期(2024~2025年度)の最終年度となった2025年度は、施設接触事故が多発していた区間における安全対策、複雑な分岐部における道路案内の明確化、そして入口部における誤進入対策の充実などに取り組ましました。

2期(2026~2028年度)は、1期(2024~2025年度)の取り組みのさらなる底上げを見据え、実効性があり汎用性も高い施策の展開に向けた考え方の整理、新技術の開発、大規模な工事の機会を活用した安全対策の充実、そして交通安全コンテンツの作成に注力します。



32号新神戸トンネル 箕谷JCT / 出口分岐におけるカラー舗装状況

大阪・関西万博期間中の取り組み

大阪・関西万博の開催にあたり、自家用車やシャトルバスなどの多くが阪神高速道路をご利用いただくことから、さらなる混雑や事故の発生が懸念されました。

そこで、会場外駐車場を示す案内看板の設置や、混雑が予想される区間における情報板やETC2.0を活用したカーナビ画面上の表示、音声による情報提供を通じて、万博来場者を含めたすべてのお客さまが安心して阪神高速道路をご利用いただけるようにしました。これらの取り組みを、万博レガシーとして、今後の渋滞対策や交通安全対策に活かしていきます。



万博駐車場への案内看板



ETC2.0による注意喚起情報の表示
(カーナビ画面上に表示)

交通安全啓発活動の実施

「STOP! NAGARA DRIVING PROJECT (通称SNDプロジェクト)」は、阪神高速道路(株)、西日本高速道路(株)、本州四国連絡高速道路(株)および(株)エフエム大阪の4社が協同して、高速道路での危険運転を撲滅し、交通事故ゼロを目指すプロジェクトです。スマホ操作し「ながら」や、イライラし「ながら」などの危険運転を防止するための交通安全啓発活動の一環として、2025年度は「伝えよう!届けよう!冬のSNDメッセージキャンペーン」を開催しました。

1,800作品を超える応募があり、グランプリ作品は2026年2月14日に開催された「LIVE SDD 2026」においてお披露目され、朗読劇のテーマとなりました。そのほかにも2025年度はラジオや阪神高速ホームページなどでの交通安全啓発の発信に加え、啓発グッズを制作し、各種イベントにて配布しました。



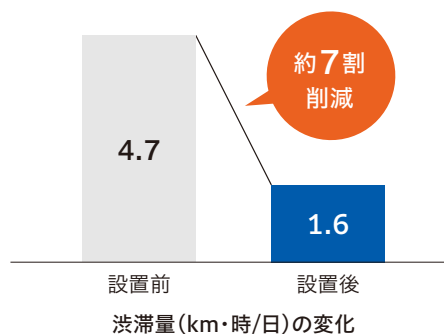
SND 審査会

速度回復誘導灯の設置

勾配が下りから上りへと変化するサグ部では無意識に速度が低下してしまい、ボトルネックとなりがちです。そのような場所において速度回復を促すため、等間隔に設置した点滅灯を一定速度で連続的に点灯させる「速度回復誘導灯」を設置しています。設置区間において、実勢速度に応じた点灯速度で運用することにより、深江付近の渋滞量(渋滞長×継続時間)は約7割削減されました。



速度回復誘導灯(3号神戸線(東行)深江付近)



VOICE

お客さまに気持ちよくご走行いただくために

阪神高速トール神戸(株)では、阪神高速道路の顔である料金所で収受業務を行っています。阪神高速道路をご利用のお客さまに気持ちよく安全に目的地までご通行いただけるよう、感謝の心と安全を願う気持ちを添えてお客さまをお出迎えし、お見送りをしています。

お客さまから「ありがとう」と言われるよう、初心を忘れずこれからもお客さまとのコミュニケーションを大切に、より一層のサービス向上に努め、お客さまから愛される料金所を目指してまいります。



阪神高速トール神戸株式会社
藍那営業所
新實 和美